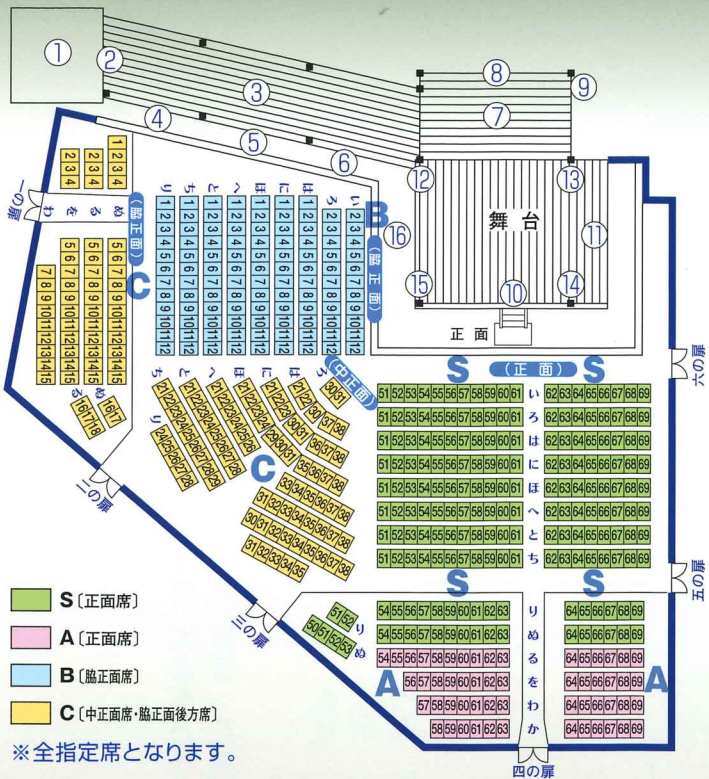


宝生能楽堂座席表(舞台平面図)



■ 舞台平面図

① 鏡の間	② 揚幕	③ 橋掛り	④ 三の松
⑤ 二の松	⑥ 一の松	⑦ 後座	⑧ 鏡板
⑨ 切戸口	⑩ 階(きざし)	⑪ 地謡座	⑫ シテ柱
⑬ 笛柱	⑭ ワキ柱	⑮ 目付柱	⑯ 白州

能楽堂とは
能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間(約6m)四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。

この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物客席になっていましたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。

昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。

【チケット料金】(税込) **全席指定**

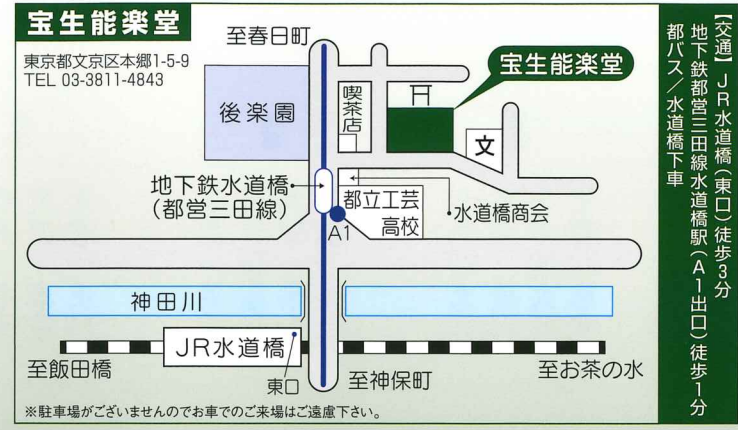
- ◆ S席 …… 8,800円 ◆ B席 …… 5,500円
- ◆ A席 …… 6,600円 ◆ C席 …… 4,400円

【チケット取り扱い】 **5月17日(金) 午前10時より**

- ◆ 電話(有人対応 休業日を除く10時~15時)
チケットスペース ▶ 03-3234-9999
- ◆ インターネット
e+イプラス ▶ <http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
*販売は上記に限り承ります。

《学生割引》2,000円・キャッシュバック
当日会場にて、26歳以下の学生の方々に2,000円をキャッシュバック致します。

- 当日、上記が確認できる証明書等をご持参下さい。受付は、会場入口付近となります。
- キャッシュバックは、チケットをご購入の上、当日会場に来られた方に限ります。
- 証明書等をお持ちにならなかった方へは、キャッシュバックは致しません。



【お願い】

- *上演中の撮影、録音、録画は固くお断り致します。
- *上演中はアラーム及び携帯電話の電源をお切り下さい。
- *本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。
- *出演者はやむを得ぬ事情により変更させて頂く場合がございます。
- *舞台進行が常と異なる場合があります。
- *開場前のご来館につきましては能楽堂館外にてお待ちしております。

◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <https://www.nohgaku.or.jp/>

ユネスコによる人類の無形文化遺産【能楽】

能 金春流「初雪」
金春 憲和

能 喜多流「天鼓」
塩津 哲生

第四十六回

公益社団法人能楽協会 普及公演(東京)

納涼能

令和6年7月19日(金)

会場 宝生能楽堂

主催/公益社団法人能楽協会 東京支部

開場/午後1時 開演/午後2時

撮影「初雪」辻井清一郎 「天鼓」前島吉裕

ごあいさつ

納涼能は本年度第四十六回を迎えました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。今回もシテ方五流総出演はもとより、能楽師によるミニ講座等、当支部ならではの企画となっております。また、金春流には能「初雪」を、金剛流は仕舞「大蛇」を、宝生流は仕舞「綾鼓」等、各流派の特色を活かした選曲としました。

お暑い時期ではございますが、能楽に親しむ良い機会かと存じます。万障お繰り合わせの上、ご来場賜りますようお願い申し上げます。

東京支部長 朝倉 俊樹

番組

ミニ講座 高橋 忍

能 (金春流)

ツレ(上臈) 柴山 暁
ツレ(上臈) 中村 昌弘
ツレ(上臈) 山中 一馬
後シテ(鳥の霊) 金春 憲和
前シテ(姫君)

初雪

アイ(誓考傳女)

山本 則秀

大鼓 柿原 光博 大鼓 徳田 宗久
小鼓 幸 正昭 笛 成田 寛人

後見 金春 安明
横山 紳一

地謡 渡辺 慎一 山井 綱雄
本田 芳樹 高橋 忍
大塚龍一郎 辻井 八郎
後藤 和也 井上 貴覚

休憩 二十分

〈三時三十分頃〉

狂言 (和泉流)

樋の酒

シテ(太郎冠者)

野村 万作

アド(主) 内藤 連
アド(次郎冠者) 高野 和憲

後見 月崎 晴夫

仕舞 (金剛流)

大蛇

金剛 龍謹
福王 和幸

地謡

見越 英明
宇高 竜成
廣田 泰能
元吉 正巳

仕舞 (観世流)

鐘之段

梅若万三郎

地謡

小島 英明
梅若長左衛門
武田 宗和
加藤 眞悟

仕舞 (宝生流)

綾鼓

宝生 和英

地謡

和久莊太郎
朝倉 俊樹
小倉健太郎
上野 能寛

休憩 十分

〈四時二十分頃〉

能 (喜多流)

天鼓

後シテ(天鼓の霊)
前シテ(天鼓の父)

塩津 哲生

殿田 謙吉

盤渉

アイ(従者)

大藏 基誠

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 飯富 孔明 笛 藤田 次郎

後見 狩野 了一
佐々木多門

地謡

佐藤 陽 金子敬一郎
大島 輝久 大村 定
内田 成信 香川 靖嗣
塩津 圭介 長島 茂

〈終了予定 五時三十五分〉

能 初雪

ある姫君は「初雪」という名の、白い鶴を寵愛していました。ある日侍女の夕霧が、その鶴が死んでいるのを見つけ、姫に報告します。姫は悲しみに打ちひしがれ、近所の上臈たちを集めて供養することにします。供養を始める初雪が空に姿を見せて舞い降り、甲がつきない身となれたことを喜び、しばらく懐かしそうに飛びめぐっていましたが、やがて行方も知れずに飛び去ってしまいました。金春流のみに伝わる曲目です。間狂言が狂言独自の女姿で登場し、物語の導入に活躍するところも見どころです。後シテの真白な鶴の姿も印象的で、悲しい内容の曲ではありますが、それにも増して可愛らしさに溢れた作品となっています。

狂言 樋の酒

主人が太郎冠者に米蔵、次郎冠者に酒蔵の番をするよう言いつけて出かれます。次郎冠者が早速酒蔵の酒を飲み始めるので、太郎冠者はうらやましくて仕方ありません。そこで次郎冠者は、酒蔵から米蔵へ樋を渡して酒を流し、太郎冠者にも飲ませることに成功します。すつかり調子に乗った二人は…

仕舞 大蛇

八頭の大蛇である八岐大蛇に生贄として差し出される櫛稲田姫が両親とともに嘆き悲しんでいるところへ素戔嗚尊が訪れ、尊は櫛稲田姫と夫婦の契りを結び八岐大蛇の退治に向かいます。シテ・八岐大蛇とワキ・素戔嗚尊の対決を仕舞としてご覧いただきます。

仕舞 鐘之段

我が子を探す母は夢の告げ通りに三井寺にたどりつきます。物狂となつた母は、女人禁制の三井寺の鐘を撞きます。その鐘の音を聞いた我が子の千満と再会を果たし、共に故郷へと帰っていきます。

仕舞 綾鼓

御所の庭掃きの老人が、女御を見て恋慕の情を抱きます。桂木の枝にかけた鼓の音が聞こえたら姿を見せようという言葉を信じて老人は懸命に鼓を打ちますが、綾で張つたその鼓は鳴らず老人は悲しみのあまり「桂の池」にその身を沈めます。池の底から老人の亡霊が現われて女御を責め立てて、恨みの言葉を語りながら池の淵へと消えていきます。仕舞では、女御への強い感情を壮絶な地謡のせて舞います。

能 天鼓

中国、後漢の時代に、王伯、王母という夫婦がいました。あるとき王母は、天から鼓が降って来て胎内に宿るといふ夢を見て懐妊したので、生まれた子を「天鼓」と名付けたところ、その後本当に鼓が降って来ました。その鼓は大変素晴らしい音色がして、その噂を聞いた帝が、鼓を差し出せと命じます。天鼓は鼓を持つて山中に隠れまわりますが、いつか呂水の江に沈められてしまいます。ところが、取り上げて宮中に据えた鼓はいくら打つても鳴りません。そこで、父親の王伯を呼び出すために勅使を差し向けてます。王伯は、愛児を失って悲嘆にくれていましたが、宮中に赴き鼓を打つと、もどおりの美しい音色が鳴り響きます。心を打たれ帝は王伯に褒美を与えて帰します。中入・呂水の堤に行幸し霊を弔うための管絃講を行うと天鼓の亡霊が現れ、愛器に再びめぐりあえた嬉しさに、鼓を打ち鳴らして喜び舞い遊び、夜明けとともに幻のように消えて行きます。

盤渉とは舞の中で囃子の調子が高くなり、より華やかになる特殊演出のことです。